都立若葉総合高等学校

【校長】 山室 俊浩　【生徒数】 ６４９名　【学級数】 １８学級

【実態】

○メディアリテラシー、ヘルスリテラシーに対する理解が乏しく、情報の取捨選択、活用が不十分

○性に関する知識や異性の心身の変化について理解不足

⇒　知識をうまく活用することが健康へとつながることを理解できるようにする。

⇒　自分を大切にすることが他者への思いやりにつながるだけでなく、自己を守ることにつながることを理解できるようにする。

【取組】

○保健の授業における主体的学び

知識の伝達だけでなく、ブレインストーミングやケースメソッドを用いた授業を取り入れ、展開する

○性教育セミナーへ参加

現在における、思春期の子供たちの情報リテラシー能力の低さ、性被害が多いことを理解し、予防策を学び、授業へと結びつけた。

○産婦人科医を招へいした公開授業

専門家の意見を直接聞くことで、性に対して真正面から学び、理解する態度につながった。

【目標】

・メディアリテラシー、ヘルスリテラシーに対する理解を深める

・性に関する知識や異性の心身の変化について理解し、ライフプランをデザインできる能力を身に着ける。

【課題・改善】

○性教育の指導は生徒だけでなく教員側も新しい知識を取り入れる必要があり、選択肢の幅が広がっていること、情報を理解するだけでなく、活用することが大切であることを伝える。

➡　【今後の取組】

○授業内においてブレインストーミングやケースメソッドを取り入れ、選択肢は１つではないこと、状況や場所によって様々な考え、判断があることを提示し生徒に主体性を持たせた授業展開を行う。

また、外部講演会などを活用し、情報のアップデートを行う。

【成果】

○生徒の意識に関する成果

低用量ピルや、子宮頸がんワクチンなど専門家が説明することで、問題意識をより明確に持ち、ライフプランを考えるきっかけにつながった。

○生徒の態度に関する成果

事後アンケートや質疑応答では、「専門家が断言してくれたことで、今後の選択肢の幅が広がった」という記述がみられ、ライフプランに対しての考え方の変化が見られた。

○その他

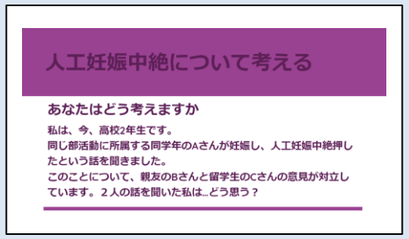
健康教育（性教育）の大切さが伝わったと感じる。

【具体的な取組】

○ ケースメソッドを取り入れた保健の授業

避妊法と人工妊娠中絶の分野において、未成年者の人工妊娠中絶のストーリーを用意し、中絶に対しての肯定・否定の対立意見について、生徒自らが、状況を想定し、考える場を設定した。

単に中絶の方法や、経済面の負担、未成年者が出産することの社会的な障壁を考えさせるだけでなく、国や文化、中絶に対する考え方が地域によっては違うことを踏まえ、生徒が様々な視点をもち、考える契機とした。また、相手の意見を尊重し、多角的に物事をとらえ、考える意義を指導した。



保健の授業

○ 教員の指導力を向上のため、「性教育指導セミナー全国大会」に参加

<セミナー概要>

インターネットや SNS の普及により、情報の送受信が簡単にできる時代になった一方、性被害の SNS での拡散や誤った性情報の取得による、トラブルが絶えないことが問題となっている。

様々な立場の専門家による、ネット社会における性・性教育に関する問題について情報共有を図ることを目的とした研修会であった。

保健体育科内で授業の発展に向けた情報共有を図った。

○ 産婦人科医を招へいした公開授業の実施

<授業内容>

①ヘルスリテラシーとは

②性差の仕組み

③セクシュアルヘルスについて

④自らの健康を守る行動について

公開授業の様子

<生徒の様子>

ヘルスリテラシーに特に関心を持ち、自分を大切にすることはどういうことかについて、集中して聞いていた。

<外部人材を活用した授業について>

子宮頸がんワクチン、低用量ピル、ウェルビーイングについてなど、専門的な話を的確に聞くとができ、生徒は強い関心をもつことができた。